

よしかわICT教育通信

発行：R4.2 吉川市教育委員会 ☎984-3564（学校教育課）

Vol. 9

◆オンラインによる様々な実践

今年度は、GIGA スクール構想の実現に伴い、学校現場での ICT 機器の利活用が一気に進みました。今回は、その中で「オンライン会議」について焦点を当てます。

新型コロナウイルス感染症対策のため、学校現場でも研修や会議などの機会に「オンライン会議」が数多く行われました。

吉川市では、昨年度から「オンライン会議」について教職員とともに研修に取り組み、準備を進めていました。当初はうまくいかないこともありました。回を重ねるごとに「良さ」を実感できる機会となりました。

現在では、研修や会議に参加するだけでなく、開催する機会も増えており、全校朝会や懇談会等の機会に「オンライン会議」を開催する学校も増えています。



学びを止めないために

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、学級閉鎖や休校などを余儀なくされる学校がありました。そのような状況の中、多くの学校で「オンライン会議」のシステムを使った「授業のオンライン配信」を実施することができました。学校での子どもたちへの事前指導や各家庭に向けての Wi-Fi 接続確認など準備の成果もあり、学びを止めないための取り組みを実施することができました。

先生方は、分かりやすい配信に向けた授業構成を工夫したり、双方向での授業実施にチャレンジしたりと、試行錯誤をしながら「授業のオンライン配信」に取り組んでいます。

実施に際し、保護者の皆様のご協力に改めて感謝いたします。



◆ICTの“真の使い手”になるために・・・

今回、紹介するのは・・・

「デジタル・シティズンシップ教育」

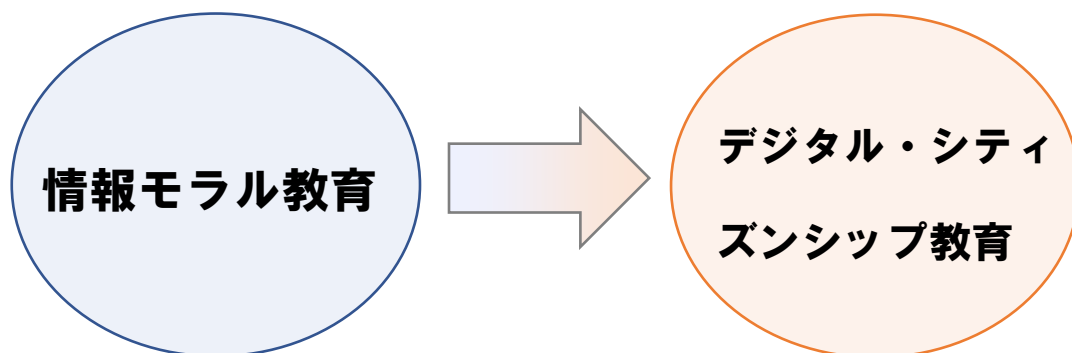
デジタル・シティズンシップとは、互いにつながったデジタル世界で生活・学習・仕事の権利と責任、機会を理解し、安全で合法的・倫理的な方法で行動し、規範となることです。



©yoshikawa

GIGA スクール構想が本格化した今、「デジタル・シティズンシップ教育」が注目され始めています。

「情報モラル教育」は以前から耳にしますが、ネット依存症や SNS の書き込みの影響等を取り上げて ICT の危険性を訴え、子供の ICT 利用を抑制するような指導が強くなることがあります。しかし、今や GIGA スクール構想下で 1 人 1 台端末を持ち、私生活ではスマホやネットゲーム、SNS 等に関わることは避けられません。子供に ICT を「使わせない」という考え方では、子供たちを本当の意味で守ることが難しくなっています。「デジタル・シティズンシップ教育」では ICT 機器を使うことが前提となっており、「してはいけない」から「どうすれば良いか」への意識の転換を求められています。



リスクがある ≠ 使わせない

市では児童生徒のタブレット端末に有償フィルタリングソフトを導入し、インターネット上の本当に危険なものから子供たちを守るために、閲覧範囲や端末使用時間に制限をかけています。

しかし「制限する」「使わせない」ことが、最終的なゴールとは考えていません

子供たちが今ある安全な環境下で ICT 機器を使いながら、正しい使い方を考えたり、時には失敗をしたりしながら、ICT が浸透した社会をたくましく生き抜く力を身に付けていけるよう、「デジタル・シティズンシップ」の視点も大切にした教育を進めていきます。

具体的な視点としては・・・

- SNS の投稿やニュースの見出し等、目にした言葉・画像の目的を疑って（考えて）みる
- 1 つではなく様々なところから情報を取得することを覚え、どれを選択するか考えてみる
- 議論が分かれるテーマについて話し合い、同じ状況でも人によって全く違う見方があることを理解し、受け入れる姿勢を持つ など

各ご家庭におかれましても、見守りとご指導をよろしくお願いいたします。

I C T
いつも ちゃんと つかおう

じゅつ

術

第9回

得た情報を鵜呑みに
しない姿勢を鍛える

メディアリテラシー

GIGAスクール構想をはじめ、先端技術が経済発展や社会課題の解決に欠かせない時代となり、学びの場面に限らず、生活全般にICTを使うことが前提となりつつあります。

こうした時代にこそ「メディアリテラシー」という情報に向き合う力が大事となります。人は個人的経験や好み、既に信じていること等で情報を解釈するバイアスというものに囚われがちです。それはときに、肯定的にも否定的にもなり得ます。

インターネットで得た情報や新聞、テレビなどの各メディアでさえもある方向性やスタンスで作成され、発信していることを理解しておく必要があります。その上で、情報を単に鵜呑みにせず、まず確認し、自分の考えを持つようにできる力が「メディアリテラシー」です。

様々な情報が飛び交い触れ、容易に手に入る時代だからこそ、この力を鍛えることが大人も子どもも必要になってきます。

注目点



学校でも学びますが、家庭でもできることがあります。

左の例は、ジャーナリストの江川紹子氏、大学教授の福田充氏のツイッターです。最近のニュース（新聞記事）について、まさしくメディアリテラシーに関する内容が発信されているのは印象的です。

難しい政治や経済の話でなくともニュースやテレビの情報に批判的思考（何でも批判するという意味ではなく）で、立ち止まって考え、複数の情報を得て判断をするという習慣をつくることは、メディアリテラシーを高めることにつながっていきます。



Shoko Egawa @amneris84 · 1時間
同じ事象も伝え方で、全く逆の印象を与える好例。今日の朝日と読売。教材にしよう。



11 484 966



Shoko Egawa @amneris84 · 50分
朝日は、高齢者の増加で重症化し死亡する患者が増えることに力点を置いたもので、医療現場の負担増加を考えさせる。読売は、感染拡大がピークアウトしたことを重視し、停滞している社会経済文化活動の活性化を促す意味合いがある。どちらが正しくどちらが間違いというのではなく、視点の違い。



福田充 Mitsuru Fukuda @f... · 11時間
【一面記事】ウクライナ危機、ロシアの侵攻を報じる日本の新聞各紙、一面記事。日経と読売は「派兵」を使い、朝日新聞は「進駐」、産経新聞は「侵攻」と表現しています。この一言だけでも新聞各社の立場やイデオロギーが表出されています。ゼミ生の皆さん新聞を手にとってみて下さい。

